

## 令和6年度特別の教育課程「海と生きる探究活動」の校内研究についての自己評価結果

### 1 「海と生きる探究活動」の主題について

研究主題・副題を「自ら課題を見いだし、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成～海と生きる探究活動における探究的な学びの充実を通して～」と設定し、海と生きる探究活動の校内研修に取り組んできた。今年度は、問題を自分事として捉え、見通しを持って探究活動に取り組む児童の姿や解決すべき課題を把握し、主体的に問題を解決しようとする児童の姿が多く見られたことから、研究主題に迫ることができたと考える。次年度は校内研究5年計画の5年目に当たる。目指す児童像の具体化を図ることで、より良い手立てを講じ、児童の探究活動がさらに充実したものになるよう職員全体で研修を深めたい。

### 2 「海と生きる探究活動」の視点の内容や視点に沿った実践は推奨されたか。

年度始めに設定した研究の視点に沿って各自工夫しながら実践を行うことができた。しかし、視点について年度始めの共通理解が不足していたこと、個々の実践での成果と課題を明確にすることが十分でなかったこともあり、良い提案を次の実践に生かせなかつたこと等が課題として挙げられた。次年度は全職員がより良く共通理解を図りながら、同じ方向性で実践を行っていくことが大切と考える。特に学習の振り返りについて、各学年で工夫は見られたが、振り返りの観点が明確ではなく、次の学びにつながるような振り返りを十分に行うことができなかつた。次の学びにつながる振り返りを全学年で行っていくために、振り返りの観点を明確にし共通理解すること、「海洋リテラシーfor 気仙沼（ループリック）」を効果的に活用した振り返り等を検討していく必要がある。

### 3 「海と生きる探究活動」の組織と活動内容について

外部講師への依頼や校外学習の際の実施踏査に海洋担当が関わったり、リアスサミット in 唐桑の準備・指導に学担以外が協力したりと学校全体で実践する体制を整え、実践した。今後も複数体制での指導の検討や初めて海と生きる探究活動に携わる担任への補助や助言を行っていく。

### 4 「海と生きる探究活動」実践に対する自己評価について

海と生きる探究活動を3年間行ってきた6学年児童は「まちづくり」や「唐桑の地域」に重点を置いて取り組んできた。昨年度の「リアスサミット in 唐桑」での内容やその態度を見ると、まちづくりや、唐桑町の漁業など、地域の良さについて考えを深めている様子が見られた。また、中井小学校と統合したこともあり、学区が広がり新たな地域の良さに気付き、探究することでより深い学びを実現し、発信することができた。特別の教育課程を編成し、「海と生きる探究活動」を行ってきたことで、児童の将来や人生を豊かにする力として今後も重視したい「非認知能力」を高めることができた。

課題として、海と生きる探究活動を指導する上で、総合的な学習の時間の内容と重複す

るところがあるために、総合と海と生きる探究活動を明確に区別できず曖昧であることが挙げられる。年間指導計画の見直しや総合を含む各教科等との関連を明確にし、指導に当たる必要がある。